



富士山静岡空港における民活化的取組

静岡県理事
(交通ネットワーク担当)
岩崎 富夫



1. 富士山静岡空港の概要
2. 富士山静岡空港の果たす役割
3. 富士山静岡空港の特徴
4. 富士山静岡空港における民活化的取組

富士山静岡空港の概要



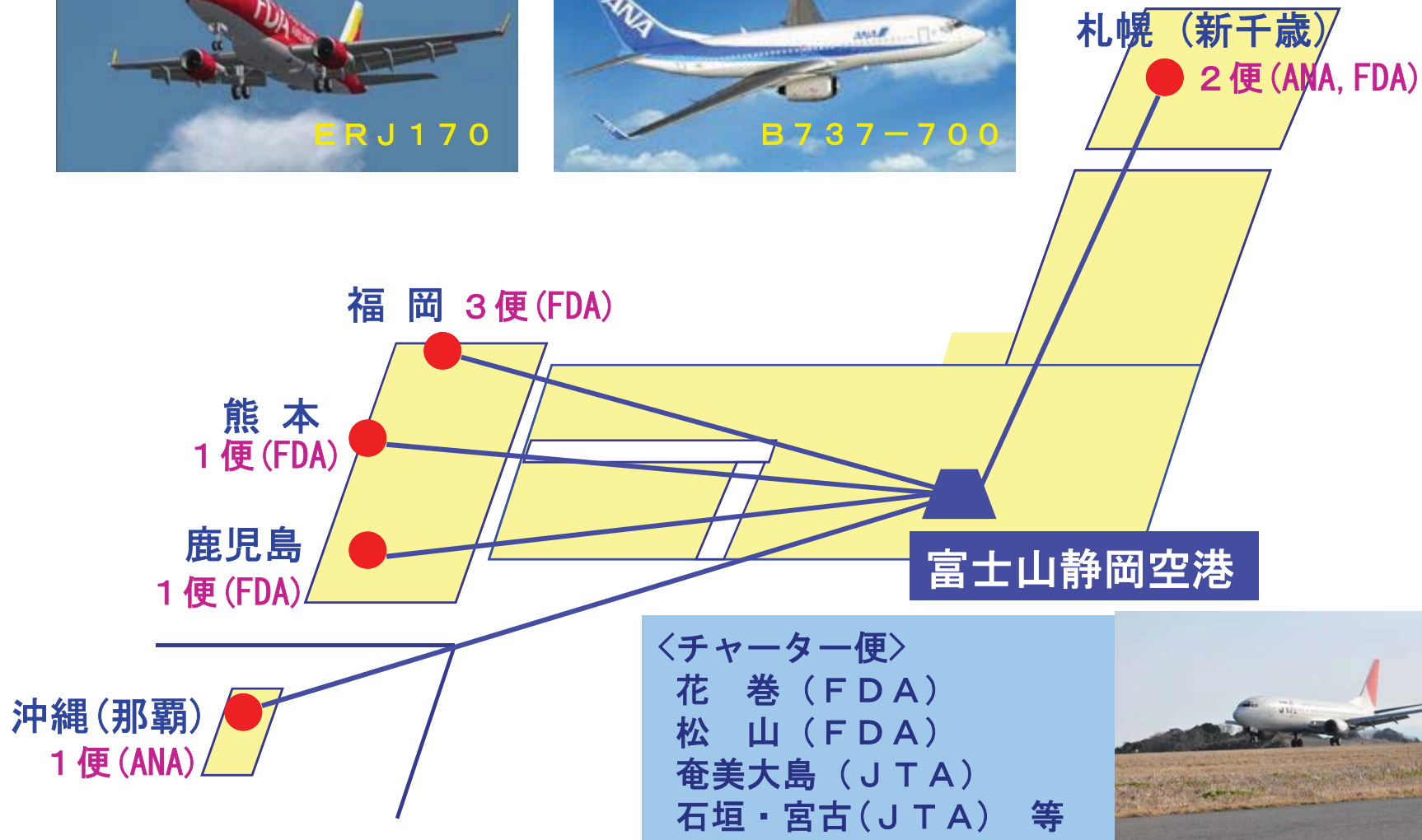
名 称	静岡空港（愛称：富士山静岡空港）
設置管理者	静岡県（地方管理空港）
位 置	牧之原市・島田市
管理面積	本体部 約190ha（周囲の緩衝緑地を含む全体面積は約500ha）
滑 走 路	長さ2,500m
標点高度	132m
開 港 日	平成21年6月4日
事 業 費	本体部 450億円 (全体額約1,900億円)



概要

就航状況 [国内線

5路線 1日8便]



概要

就航状況 [国際線

2路線週16便]



大韓航空 1日1便



アジアナ航空 1日1便



<チャーター便>

- ・台湾 [台北等] (チャイナエアライン等)
- ・中国 [武漢、長沙等] (中国東方航空、南方航空等)
- ・韓国 [釜山、済州] (アジアナ航空、大韓航空)
- ・タイ (タイ国際航空)
- ・スイス (エーデルワイス航空) 等

概要

富士山静岡空港の利用状況



		平成21年度	平成22年度
搭乗者数 (人)	国内線	351,577	316,082
	国際線	176,002	239,204
	計	527,579	555,286
搭乗率 (%)	国内線	65.2	56.8
	国際線	67.4	70.1
	計	65.9	61.9
就航率 (%)	国内線	98.4	99.3
	国際線	98.4	99.8
	計	98.4	99.4
航空貨物 取扱量 (kg)	国内線	80,920	174,447
	国際線	585	33,970
	計	81,505	208,417

富士山静岡空港の果たす役割



～富国有徳の理想郷

“ふじのくに”づくりの推進エンジン～

- 国内各地や東アジアとの交流の拡大
- 経済活性化 ・ ・ ・ 観光産業の振興等
- 災害時の拠点機能の発揮



空港の県内経済への波及効果

(空港開港から1年間で)



245.5億円

(生産誘発効果)

雇用創出効果 1,653人

その他の波及効果

税込効果 16.9億円

県民の利便性向上効果 22億円
(時間・費用の短縮効果)



- 救出・救助、消火活動部隊の中核基地としての機能
- 医療活動の中核拠点としての機能
- 県内運航へりの給油・夜間駐機基地としての機能



- **災害支援ヘリ受入等のため運用時間を延長**
- **災害支援ヘリ・チャーター便の受入・対応状況**

(平成23年4月24日現在)

静岡県医療チームや職員の派遣等	5回
国・自治体等の災害支援ヘリの受入	20回
緊急物資輸送(セスナ)	1回

富士山静岡空港の特徴



- 首都圏、中京圏のほぼ中間に立地
(羽田路線、伊丹路線の不在)
- 開港当初から国際定期便が就航
ソウル便は2便/日 搭乗率72.7% (H22)
- 地元航空会社の拠点空港
グランドハンドリング会社も地元会社
- 開港当初から空港民活化に取り組む

富士山静岡空港における民活化的取組



[基本的な考え方]

静岡空港の経営に関し、民間ならではの創意工夫を最大限に発揮することにより、経営の効率化やサービスの向上を図り、利用者の利便を高めることを目的として以下の方策を講じる。

○空港基本施設とターミナルビルを一体的に経営する空港運営会社を設立

○会社は、県内中核企業を中心とした民間イニシアティブの株式会社方式

空港運営会社設立の経緯



戦略プロジェクト会議提言

H15. 3



県内経済界に会社設立要請

H15. 7



会社設立の中心企業決定

H15. 12



運営会社検討会の開催

H16. 9~



富士山静岡空港(株)設立

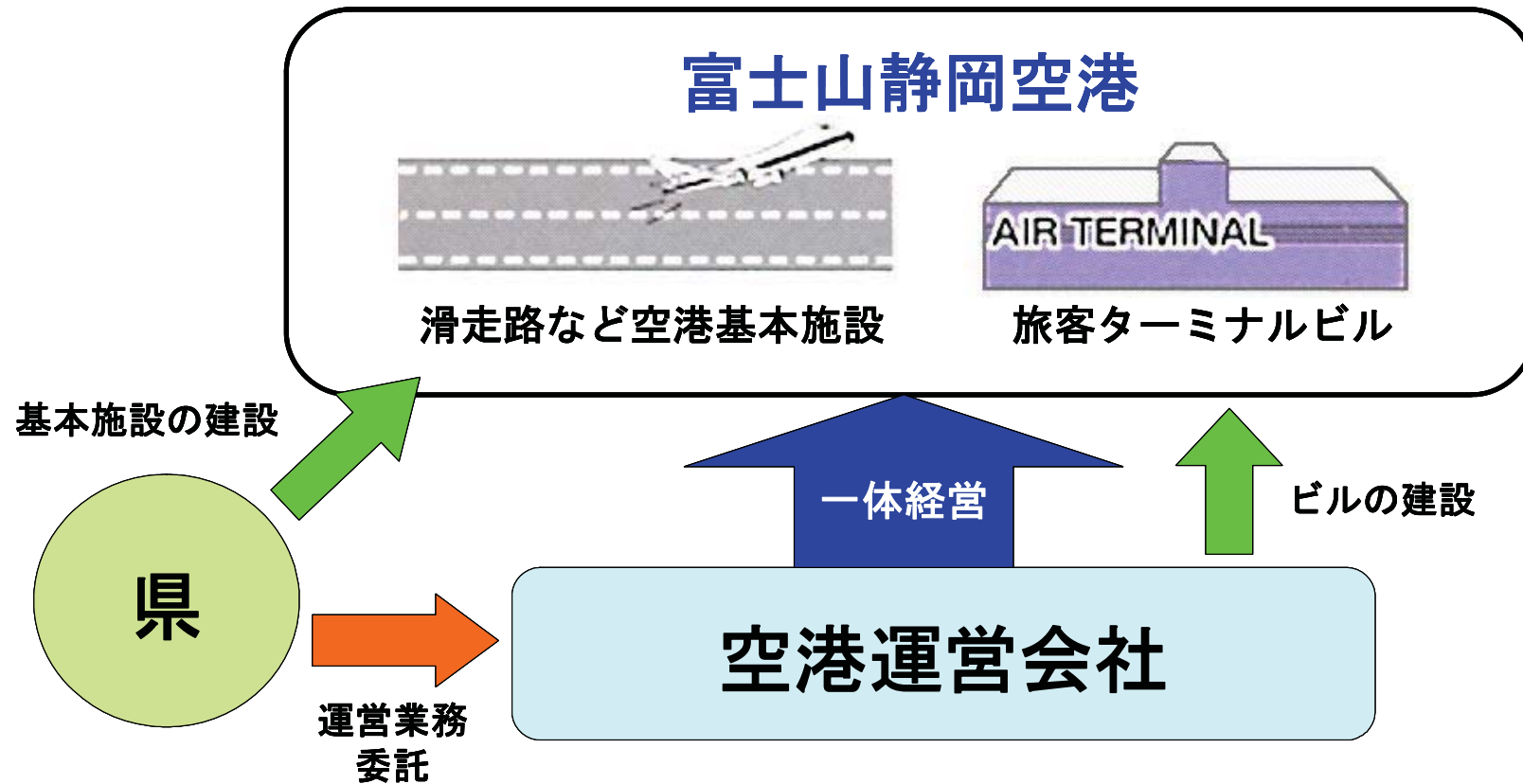
H18. 2

会社の概要



商号	富士山静岡空港株式会社 (英文名Mt. Fuji Shizuoka Airport Co., Ltd)
本店所在地	牧之原市坂口3336番地4
主 業 内 容	<ul style="list-style-type: none">・ 富士山静岡空港ターミナルビルの賃貸業・ 県が整備する空港基本施設等の管理・運営受託業務・ 県が整備する空港駐車場の管理・運営受託業務
資 本 金	496,075千円(+資本準備金496,075千円) 出資企業13社+牧之原市 出資額合計992,150千円 (設立時) 10百万円(+資本準備金10百万円) 出資企業10社
役 員	役員計7名(代表取締役1名、取締役5名、監査役1名)
営 業 年 度	毎年4月1日から翌年3月31日
設 立	平成18年2月14日

基本的な考え方



現在の運営状況



- 空港基本施設は県管理
指定管理者制度で可能な限り会社に業務委託
- ターミナルビルは、会社が建設し経営

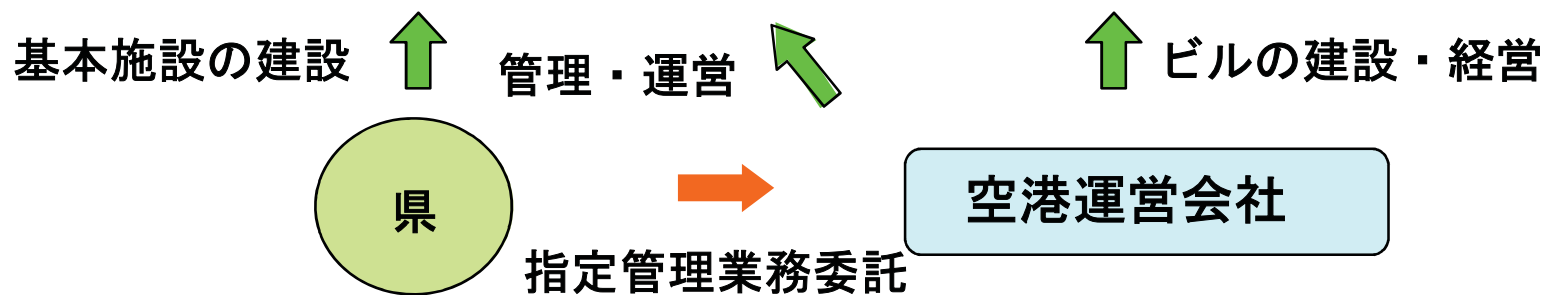
富士山静岡空港



滑走路など空港基本施設



旅客ターミナルビル



指定管理者制度導入のメリット



■ 経費節減

滑走路等の空港基本施設と旅客ターミナルビルを一体的に管理することで、管理運営業務の効率化や業務に係る人件費縮減等による管理コスト縮減が可能

■ 民間ならではの創意工夫

民間事業者に対する委託契約は、単年度契約が原則であるが、指定管理者制度の導入により、長期指定が可能となるため、受託者の効率的な業務執行が可能

■ プロパー職員によるノウハウの蓄積

指定管理者に空港管理業務のノウハウが蓄積



■ 指定管理者に委託する業務範囲

事実上の行為	<ul style="list-style-type: none">○施設の点検作業・清掃○保安関係業務○駐車場の管理○給油施設の管理
運用支援業務	<ul style="list-style-type: none">○エプロン運用、安全対策の支援○制限区域内安全管理の支援○使用料の徴収業務○許可申請の受付、許可書の交付等の事務支援

■ 着陸料等使用料は設置者が決定

指定管理者の創意工夫の発揮が限定的

空港民活法の課題 II



■ 収益性確保の困難さ

静岡空港の空港収支 21年度決算額

キャッシュフローベースの収支
(空港の管理運営に係る収支)

収入額 A	206百万円
支出額 B	644百万円
収支差(A-B)	△438百万円

富士山静岡空港(株) 21年度決算額

売上高	1,255百万円
当期損失	△1百万円
会社資産	3,920百万円

(参考)

減価償却費や県債利息等も含めた収支試算
経常損益 △1,602百万円



～安定した経営基盤の確立～

- 空港機能の充実

(運用時間の延長、エプロン拡張等)

- 利活用促進

(路線・便数の維持・増加、
旅客数の増加)

